



練馬区立橋戸小学校
学校だより 第6号
令和元年10月2日
校長 青木 俊哉

<http://www.hashido-e.nerima-ky.ed.jp/>

☆学校教育目標 考える子・思いやりのある子・たくましい子

STOP 体罰 NO 暴言 ～橋戸の取組から～

校長 青木 俊哉

「ひとをぶっちゃ、ダメなんだよ。」

この印象に残る言葉、電車の車内でよく見かけるポスターの標語です。敢えて子供に伝えるような言い方で、乗客同士や乗務員に対する車内暴力の禁止、撲滅を訴えるキャンペーンのポスターでした。

言うまでもないことですが、暴力はいけません。子供を念頭に考えると、“子供同士”ならけんか、“保護者や家族”がすれば虐待、“教師・学校関係者”なら体罰ということでしょうか。当然すべてがアウトです。仮に理由があっても、許されることではありません。改めて、暴力のない社会の実現に努めたいものです。

さて、学校における体罰ですが、日本全体に目を広げると、残念ながら“ゼロ”になっていません。“体罰はいけないこととわかっていながらなくなるならない”この現実に対して、東京都教育委員会では「体罰防止強化月間」を設け、根絶に向け取り組んでいます。これは、東京都内の全公立学校が対象ですので、本校の教員に対しても、研修を実施しています。その取組の中に、「体罰防止スローガン」の作成があります。研修実施後に、学校ごとに一つのスローガンを決め、それを意識して指導にあたるというものです。もちろん、これまで勤務した学校でも毎年実施してきたことですが、何年も続くとややマンネリ化し、取組自体が“他人事”になってしまうような印象をもちました。そこで、今年度本校では、スローガンを“自分事”と捉え、全教員が意識して指導にあたることができるよう、一人一人が「マイ・スローガン」を考え、指導、実践する、そんな取組を試みています。

スローガンの一部を紹介します。（「体罰根絶に向けて、〇〇を宣言します！」の〇〇の部分です）

- ・子供の気持ちに寄り添った指導
- ・チームで、温かく、冷静な指導
- ・児童も教師も深呼吸。一番に児童の気持ちを理解すること
- ・みんなではなそう ささえよう スッキリおだやか橋戸小
- ・子供の声（心の声も）をじっくり聞き取る心のゆとりを
- ・職員全員で力を合わせ、子供一人一人を大切にすること

ラグビー・ワールドカップの熱戦が続き、盛り上がっています。日本代表の歴史的勝利にも歓声があがりますが、試合前のインタビューで、ある選手が「日本中の誰もが勝てると思っていなくても、僕は、僕たちは勝つことを信じて取り組んできました。」と力強く答えていたのが印象的でした。

“勝利を信じる心、挑戦を支える仲間、積み重ねた練習（努力）”が、結果に結びついています。応援を通して“子供たちの心に寄り添い、一人一人のやる気を引き出し、挑戦を支える指導の大切さ”を、再確認する毎日。まだしばらくは、テレビの前から離れられそうにありません。